

◆岩崎（いわさき）さんのプロフィール
 雲仙市（旧吾妻町）で、昭和45年の20歳の時に就農。水田50aと野菜畑200aを経営。自然農法に取り組み、有機農業による野菜を栽培（じゃがいも、たまねぎ、にんじん、だいこんなど）。年間50種類の野菜を生産する一方、有機野菜の種子生産を行い、種苗交換会などで配布している。



岩崎政利さん、津代美さんのご夫婦

◆有機農業を始めた動機
 旧吾妻町のJA野菜生産部会で野菜産地づくりに努力していた。30歳の頃、原因不明の病気にかかり、2、3年間、寝たり、起きたりする中でそれまでの農業貴兄委を反省し、野菜生産には土づくりやたい肥づくりが重要であり、自然農法の大切さがわかり、有機農業を始めるきっかけとなった。現在、有機JAS認定は取得していない。

◆技術的な点
 秋冬野菜を中心（7、8割）に栽培し、夏場は土づくりを努め、クロタリア、在来ささが、緑肥カウピー、ムクナなどのまめ科作物を栽培し、土壌中の窒素成分の固定を図るとともに、鋤込みによる土壌改良効果をねらっている。

◆病害虫対策
 一つの畑に、何種類かの野菜を組み合わせる栽培し、病害虫の対策として、多様な野菜を栽培し、危険分散を図っている。播種時期に、病虫害の被害が少なくする。適期を守ると、病虫害の被害が少なくなる。病害虫が発生したら、直ちに処分する。判断を行い、まき直しすることで生産が確保される。

◆家庭菜園で有機農業をやりたい人へのアドバイス

鉢やプランターなどは土が元々少ないので、肥料・水のやり過ぎや密植しすぎると、生育が悪くなったり、病気が発生しやすくなります。家庭菜園では、毎年同じものを作ってしまうことからは、連作障害が発生しやすくなるので、土づくりとして、落ち葉や雑草、生ゴミで作ったより自然な有機質肥料を使用し、連作障害を緩和することが出来る。



鋤込み用まめ科作物
 （手前から、ムクナ、在来ささが、クロタリア）

◆これから有機農業をやりたい人へのアドバイス
 有機農業は農家を取り組むことにより、広がっていくと考えています。新規に始める人には、自然と一体になって生きられる本来の農業の良さを実現してもらいたい。

◆有機栽培用の種子
 20年ぐらい前に、有機農業を始めた時に、じんの自家採種を始めたことがきっかけとなった。野菜の生産の中で自家採取を年間50種類の野菜を保存。種子生産する中で、その野菜の特性を知るために10年ぐらい栽培することで、風土になじんだ野菜に変わってくる。地元野菜である「雲仙こぶ高菜」の種子を地域唯一保存していることが国際スローフード協会の認定を受け、今年10月、イタリア・トリノ市で開催されるサローネ・デル・グスタ2008に無償で出展することが決まっている。



雲仙こぶ高菜の種子



日本ほうれん草の種子

◆今後の抱負
 これからは、生物多様性の時代。循環型農業を推進していきたい。命のタネを撒いて次の世代を育てていきたい。地域農業の中で、有機農業が広がっていくことを願っている。

◆主な販売先

野菜は主に消費者グループ、レストラン、デパートに出荷。

お問い合わせ

電話・FAX

0957-38-3937